

講 義 要 項

授業科目		臨床薬理学		担当者	木下 力
区 分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	30 時間	講義		1年次・後期
授 業 目 標					
看護の実践の場でよく用いられる薬物の作用や有害事象、薬物の管理法が理解できる。					
単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
1. 抗感染症薬	抗感染症薬の作用と仕組みについて理解できる。	1. 抗感染症薬の作用の仕組み 2. 抗菌薬が病原微生物に作用する範囲 3. 薬物耐性 4. 使用する抗菌薬の選択	2		講義
2. 抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬	抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 主な抗菌薬の特徴と投与時の看護のポイント 2. 主な抗がん薬の特徴と投与時の看護のポイント 3. 主な免疫治療薬の特徴と投与時の看護のポイント	4		講義
3. 抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 主な抗アレルギー薬の特徴と投与時の看護のポイント 2. 主な抗炎症薬の特徴と投与時の看護のポイント	2		講義
4. 末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物	末梢・中枢神経に作用する薬物の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 末梢神経作用薬 1) 自律神経系作用薬 2) 交感神経作用薬 3) 副交感神経作用薬 4) 筋弛緩薬・局所麻酔薬 2. 中枢神経作用薬 1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) 抗精神病薬 4) 抗うつ薬・気分安定薬 5) パーキンソン症候群治療薬 6) 抗てんかん薬 7) 麻薬性鎮痛薬 8) 片頭痛薬	6		講義
5. 循環器系に作用する薬物	循環器系に作用する薬物の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 降圧薬の種類 2. 降圧薬の臨床的使用法 3. 狭心症治療薬 4. 心不全治療薬 5. 抗不整脈薬 6. 利尿薬 7. 脂質異常症治療薬	5		講義
6. 呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物	呼吸器系・消化器系・生殖系に作用する薬物の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 呼吸器系に作用する薬物の特徴と投与時の看護のポイント 2. 消化器系に作用する薬物の特徴と投与時の看護のポイント 3. 生殖系に作用する薬物の特徴と投与時の看護のポイント	4		講義

単元名	目 標	内 容	時間	単位	授業方法
7. 物質代謝に作用する薬物、漢方薬、皮膚外用薬・眼科用薬、消毒薬	物質代謝に作用する薬物の作用と投与時の看護のポイント、漢方薬消毒薬等について理解できる。	1. ホルモンとホルモン拮抗薬 1) 糖尿病治療薬 2) 甲状腺疾患治療薬 3) 視床下部・下垂体ホルモン 4) 骨粗鬆症治療薬 2. 治療薬としてのビタミン 3. 漢方医学の考え方 1) 主な漢方薬の作用と有害作用 4. 皮膚科用薬・眼科用薬 5. 消毒薬の種類と応用	4		講義
8. 救急の際に使用される薬物、血液製剤	救急薬、血液製剤の作用と投与時の看護のポイントについて理解できる。	1. 救急に用いられる薬物 1) 心停止・ショック 2) 不整脈・高血圧緊急症・狭心症 3) 血栓溶解薬 4) 利尿薬 5) 気管支喘息発作治療薬 6) 鎮痛薬・鎮静薬・静脈内麻酔薬等 2. 急性中毒に対する薬物 1) 薬物中毒 2) 食中毒 3) ガス中毒	2		講義
		修得試験	1	1	
参考文献等	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(3), 薬理学, 医学書院.				
評価	1. 単位修得試験				
備考	実務経験：薬剤師として、豊富な実務経験をもとに授業を行う。				